



今日の内容

- (1) 地域包括支援センターが抱える限界
- (2) みま〜もの目指すネットワークと活動紹介
- (3) 地域包括ケアのキーワード！！



平成20年4月発足！

新たな都市型
ネットワーク戦略！！

- ・ 専門職・法人ネットワーク
- ・ 競合から協調へ！
- ・ 多様な高齢者を「地域ネットワーク」で包括する。
- ・ 東京都保健・福祉計画
モデル事例（H24～26）

おおた高齢者見守りネットワーク

平成18年4月介護保険法改正に伴い
「地域包括支援センター」創設！

本来は・・・、

介護予防システム・
地域包括ケアの中核として、
「地域づくり」（地域包括ケア）
の役割を担っている。

ともすれば・・・、

相談に来ることができた高齢者に対して、
サービスを提供するだけの対応に終始しがち。

まるで、
もぐら叩き！



それでは、今後の更なる高齢化や、
多問題を抱える高齢者に対応できなくなるのは明らか！
本来の地域包括支援センターの役割を果たしたことには
ならない。

地域包括支援センターがネットワーク構築に 向かえない要因・・・。

地域包括支援センターへの期待が大きい地域づくり（ネットワーク構築）！
しかし・・・

- ・ 人員体制の問題、介護予防プラン業務等、日常業務に追われ、
思いはあっても実行に移せない。
- ・ 母体法人の理解。（ネットワーク構築へ職員がかかわること
自体の理解、地域包括支援センターへの理解）
- ・ 包括職員間の認識・目的の共有。
- ・ 費用面。（ネットワーク構築にかかる費用は誰が出す？）
- ・ 時間や労力がかかる、成果を明らかにしにくい。

高齢者見守りネットワークの代表的な例とその問題点

「見守る人」を募り、「見守られたい人」への定期訪問を実施。



見守っていただくボランティアは集まるが、見守られたいと手を挙げる人がいない。
見守りが本当に必要な人は、自分では手を挙げられずにいる人。

地域包括支援センターで一人暮らし高齢者への実態把握し、サービス利用につなげていく。



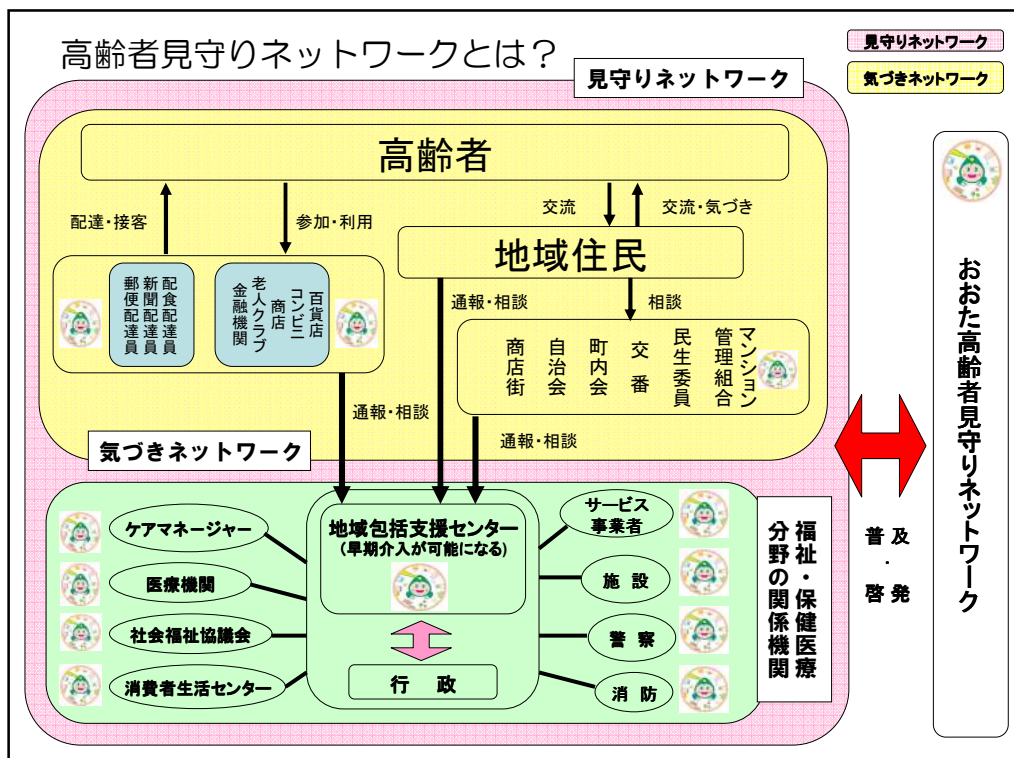
地域とつながる必要がない！
住民は、
地域包括支援センターに
お・ま・か・せ



自分では手を挙げられずにいる人・・・。
この人たちに早期に気づいて、専門職種につなげていく活動が、今、求められています！！

みま～もの目的！

住民同士の日常のお付き合いから、適切な時期に専門職につながるシステムづくり！！



地域づくりセミナーの目的

- ① 地域住民に「気づき」の視点を伝え、ご近所の「異変」に気付くことができる（ご近所に関心を持つ）人を増やす。
- ② 住民の「気づき」を、必要な時期に地域包括や専門機関につないでもらえるよう、顔の見える関係をつくっておく。・・・講師は、基本的に地域の専門家！
- ③ 専門機関が企画・運営をする中で、対応のネットワークが成長することで、迅速かつ適切な個別対応につながる。

高齢者見守りキーホルダーの効果

地域包括支援センター新規台帳登録件数

平成20年度 **270件** → 平成21年度 **387件** → 平成24年度 **293件**
(平成24年4月～9月)

「キーホルダー」をきっかけに、
本来、包括支援センターを訪れる必要のない人が自ら窓口に来ている。

↓
早い段階で地域包括支援センターの存在を知り、早期に専門職が関わる事が可能となる！

「地域包括支援センターを利用したことがある」という
一人暮らし高齢者全国値との比較

年齢区分	入新井	全国値
65～69歳	15.2%	8.6%
70～74歳	19.9%	16.7%
75～79歳	27.8%	14.5%

引用：「野中ら 第54回日本老年社会学会 2012」

発想の転換！！
地域包括支援センターが
取り組むネットワークとは？

大田区における地域包括支援センターの基本方針

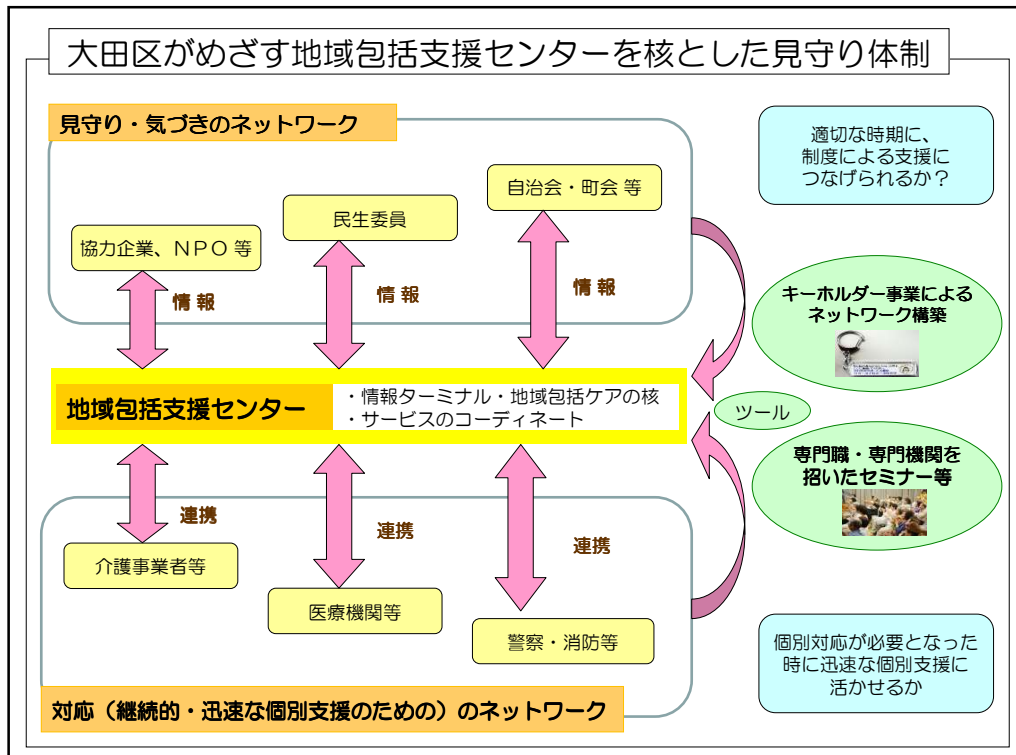
平成23年9月6日 決定

基本方針1 総合相談窓口としての機能を充実させる

基本方針2 地域力を活かした見守りネットワークを構築する

基本方針3 関係機関との連携を強化する

平成24年6月より、全包括支援センターに
「高齢者見守りコーディネーター」を各1名配置



ネットワーク組織の定義

特定の共有された目的実現をめざす
独立した組織・個人の集合体。

ネットワークは、「目的」ではなく「手段」



- ・何のためにネットワークをつくるのか？
- ・ネットワークを使って何をするのか・・・？



住民同士の日常のお付き合いから、
必要な時期に専門職につながり、
適切な支援につながるシステム
づくり！



私たち専門職が築くネットワークは誰のため？

地域のため、高齢者のため、家族のため・・・？
やらなければいけないから・・・？

**自分たちの本来持っている
専門性を発揮できる
仕事をするため！**

生死に関わるぎりぎりの状態で
通報により初めて介入！

(こんなときは専門職も
へったくれもない！)

こんな気の重い、
苦痛な
ことはありません！！



一人はひとりではしかない・・・。



本来サービスが必要だが、
自分ではサービス利用までたどり着くことができない、
SOSの手を自ら挙げることのできない人たちをどうするか？

地域包括支援センター
で把握し、サービス
利用につなげていく。

↓
地域とつながる必要がない。
住民は地域包括支援センター
にお任せ。

↓
実働職員を配置するのなら、
一人ですぐに足りなくなります。

**地域包括支援センターが
担うのは、
実働部隊ではなく
コーディネート機能！**



最初からそうだったわけではない。
今からこのような人たちをつくら
ない取り組みへ方向転換！

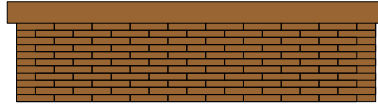
↓
地域も役割を担う。地域のため
あり、自分のためにも・・・。

↓
協力を求めるということは、
役割を持ってもらうということ。
この『役割』、『社会参加』と
いうものが、これからの高齢者の
孤立予防につながる。

**「孤立していく高齢者をつくらないことこそが大切！」この視点から、
地域包括支援センターが形づくるネットワーク構築を考える。**

ネットワーク構築に向かうとき、
壁や限界は、たしかにありますよね・・・。

- ・ 個人情報の壁
- ・ 情報公開・共有の壁



行政・包括支援センター・医療・ケアマネージャー
民生委員・地域住民それぞれに、

限界は当然あるもの！

それぞれ自分の専門・分野の限界を知ることが第一歩！
必要性を求めるからこそ
自分たちの周りに、どれだけつながりあうことのできる
社会資源・人的資源が見えてくる！

医療連携

医療・介護連携

地域包括ケア

今、なぜ
必要なのか・・・？

決して見失ってはいけないこと！

- ・ 地域に暮らす、地域で働く、すべての人たちで支え合う
体制づくりのため。（制度内連携・制度間連携・専門職連携
がゴールではない！）
- ・ まちづくりの視点！